

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム きたかみ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	石巻市北上町橋浦字大須234番地
記入者名 (管理者)	佐藤 みね子
記入日	平成20年12月8日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>毎日のミーティングで、母体であるシルバーグループの理念を唱和し、さらにグループホーム独自の基本理念を心掛けている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念に基づき毎日の気づき連絡ノートに記入し、また状況に応じ家族に報告、相談し、ケア会議で話し合いの場づくり、その人らしく地域の中で伸び伸びと暮らして頂くよう努めている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族には契約時に理念の説明をし、ご理解を得ている。運営推進会議や面会にこられた方地域の方々にはお話しする機会設けて理解して頂けるようにしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近所の方々に散歩や日光浴等でお会いした際は笑顔で挨拶交わし、野菜の差し入れ頂いたり、花の好きな利用者様に花頂いたり、行事、利用者様の買い物、理美容等も近所の店を利用することで、また受診、と上手く付き合えていると思う。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>特養と一緒に行事には地域の方々の踊りや歌、お神楽、保育園、学校と、またGHでもボランティアさんの折り紙教室、家族の演奏会、家族手作りの誕生会、常に家族の方々に声掛けて参加して頂いている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	家族会や家族面会に来た際や運営推進会議で聞く機会を設け、認知症に対する窓口になれば良いと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員に自己評価とは、記入とは…をケア会議設け読み合わせ行い、全員に記入してもらい、意義を理解するよう取り組んだ。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況、活動状況、実地指導、外部評価、相互評価結果報告し、参加メンバーから質問、意見、要望受け、双方向的な会議になるよう配慮している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の中で市・町・村の担当者に対し、地域の行事、災害対策等ホーム側からグループホームを理解、支援してもらおう働きかけ行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	生活保護の方が待機に1名いるので、地域包括センター、市の生活保護課と相談、協力し、勉強していきたいと思う。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	パンフレットをスタッフに配布し、日々注意払い防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じレベルに合わせた研修を受けるようにしている。また、併設施設内でも勉強会を行っている。グループホーム内でもケア会議で状況変化に応じたアセスメントや勉強会を行い対応している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や保険課設ける研修会、意見交換会に参加。宮城県GH協会に加入し、実践報告会、相互評価報告会研修に参加し、他の事業所との交流を図り、質の向上に努めた。	○	管理者が多かったが、今後職員も参加するようにし、他の事業所との交流を図りたいと思う。(情報交換する機会つく)
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃何でも話せる雰囲気づくりに心掛け、ケア会議ではスタッフの意見や要望を吸い上げ、業務につなぎ、常にスタッフ同士の人間関係し把握し、チームが一つになるよう努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修セミナーの希望募り、参加できるよう取り組んでいる。また、資格取れるようバックアップしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	実調等、または訪問時には必ずご本人、家族の方にはお会いし、不安、困っている事、これまでの暮らしぶり、好きな事、嫌いな事等細やかに吸い上げ、また関わっている中でご本人の声(どんな小さな事でも)を大事に見逃さないよう、ご本人そのまま大事にした、その人に合ったケアプランに努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み時、実調の際、契約時の際は時間にゆとりを持ち、相談を受けている。また、入所しても利用者の状態に応じ、報告、相談密にし、常に面会に来れる、また相談できる雰囲気づくりに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の声どんな小さな声でも見逃さず連絡ノートに記入、報告密に行い、ケア会議で家族やスタッフの意見、気づき吸い上げアセスメントその都度行い、その人らしくのケアプランに努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者、家族に見学して頂き、すぐ入所したした方には馴染みの方に来て頂いたりこちらから相談し、一緒に馴染みの方や家、お寺に行き、また面会に来れる方には来て頂き、「いつでも行けるんだよんな…、来れるんだよ…」と安心感持って頂くよう寄り添うケアに努めた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様を尊敬し、家族の一員として愛情を持って、また感謝し、その人らしく伸び伸びと生活して頂くよう、その人その人できること大事にして頂き、自信にもつながり、また安心して過ごせるよう支援している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望吸い上げ、常に家族と状況に合わせ連絡と相談し、利用者にとって一番良い方向に行くように、家族に遠慮なく要望等言って頂けるような信頼関係に努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、利用者の家庭環境、生い立ちの理解に努め、本人、家族、地域の方々、スタッフの思い、気づき、意見を吸い上げ、取り入れ、ご本人、家族が安心して過ごして頂ける介護に向け、報告、連絡、相談、密にして支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月の行事には地域の水辺センターで食事会、公園での芋煮会、近場の温泉、海、川にドライブ、常に一人でも外の日光浴、近所の方と交流でき、野菜頂いたり、受診は近くの診療所、本人希望の理美容店も近くの所利用し、また馴染みの方の面会、来訪しやすいような雰囲気づくりに努めている。	○	まだまだ、利用者の方の馴染みの人や場所、よく把握できない方もあるので、もう少し掘り起こし、把握できるようにしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	定期的にケア会議行い、利用者の声大事にし、利用者のカンファレンス、アセスメント行い、座席の配置変えたり、利用者がストレスやトラブルにならないよう常に様子観察に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了した方はまだいないが、今後退所しても電話で近況聞け、また遠慮なく立ち寄れる関係にしたいと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方には、ご家族から情報を得るようにする。また、本人にとってどのように暮らすのが一番なのか、本人の声を大事にし、家族等交え職員全員聴取し確認し、その人らしく暮らせるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調、契約時、また利用後も面会時、ご家族、関係者から折に触れ聞くようにしている。ご本人からも折に触れ、聞いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中で出来る事、出来ない事を把握しながら、出来る事に注目し、その能力が維持できるように努めている。また、各々の生活リズムを理解しながら、その人に全体把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らせるように、日頃の生活の中で思いや要望、家族にも聞き、その人その人の状況に応じたアセスメント含め、スタッフ全員で気づき話し合い、利用者本位の介護計画の作成に近づけるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果等をスタッフがモニタリング、アセスメントを行い、利用者状態変化、状況に応じて見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気づき、利用者様の状態変化は職員同士で申し送り密にし、個人個人のケア記録に残し、また気づきノートつくって活用し、月1回のケア会議、カンファレンスにてアセスメント行い、実践や介護計画見直しに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様、家族の状況に応じて通院、受薬、利用者様の買い物、介護保険の更新手続き等など必要な支援は臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らし続けられるよう運営推進会の中で民生委員さん、区長さん、福祉課の課長さんと情報交換する機会設け、地域行事の情報収集を行うとともに、そうした地域の行事に積極的に参加するよう努めた。地域の行事に参加するとともに、GH防災の件についても意見を出して頂き話し合いを行った。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況や希望に応じて他の事業所、外部のCMと連携を図っています。情報をスタッフ全員に説明し、対応しました。他の事業所より移ってきた方が2名、また他の市町村から入所された方が1名いるので、他の事業所の相談員、CMから入所したばかりの時の状況、対応の仕方を細やかに聞きし、ご本人戸惑わないように配慮した。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医に、できるだけ受診できるように支援している。また、受診や通院はご本人やご家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同伴の受診となっておりますが、状況に応じてスタッフが代行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の状況に合わせてご家族と話し合い、認知症専門医精神科家族と一緒に受診し、治療を受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の特養の看護職員と常に利用者状態変化に応じて24時間体制で支援行えるようにしている。状況変化等については、家族に報告している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	今は入院の方はいないが、今後入院された場合はできるだけ早期に退院できるよう洗濯物届ける際に病院関係者と情報交換や相談に努め、連携していきたいと思っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変した場合は看護職に24時間連絡とれ、また入院が必要な際の病院も家族と相談し、近くの医療機関に移っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後のため、ターミナルの研修はスタッフ2名(2回目)研修を受けている。重度や終末期の利用者を支えていくためには、チーム連携、スタッフの育成等諸条件整っていないので、現在は検討中だが、少しずつスタッフの育成と質の向上に努力したい。	○	スタッフ全員に研修受けさせたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在はまだいないが、今後でてきた場合、利用者の環境や暮らしの変化によるダメージが最少になるよう、家族や関係者と連携を持ち、必要な情報提供するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常日頃より利用者を尊敬し尊厳することスタッフに声掛けし浸透するようにしている。他家族や外来者に対して、本人のプライバシーに関する情報は漏らさないように徹底している。本人の誇りを傷つけたりするような言い回しはせず、本人の意欲を高めるような声掛けに心掛けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様一人ひとりの状態に合わせた声掛け、説明の仕方をし、行事等で行きたい所や好きなメニューを聞いたり、歌も好きな曲選んで流したり、ビデオかけたり、おやつもご本人が選択できるよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れはあるが、一人ひとりに添った対応でその日の状況に応じて支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えは利用者の好みに任せているが、自分で決定しにくい利用者にはスタッフ一緒に考えて選んでいる。理髪は利用者一人ひとりに聞いて希望に合わせ、出張の理髪、行きつけの理髪店に行き、髪の長さ、顔そり等を本人にお聞きし行っている。	エレガンスの機会増やしたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嫌いな物は事前に聞いて出さないようにしている。旬の食材で利用者様に聞きながら好きなメニューを作っています。利用者の状況に合わせて一緒に作り、片づけをしております。また、太ってきた方3名いるので、カロリーの高い料理控えるように努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	スタッフは利用者の好みを把握し、利用者と一緒におやつ買いに行ったりして、好みに合わせるようにしている。(お酒、タバコを嗜まれる方は現在いません。)	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間等をチェック表に記入、把握し、利用者に合った排泄方法全員で話し合い、ケアプランに基づき利用者ごとに排泄を誘導しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日等決めず、ご本人入りたい時間、その日の希望に合わせて、毎日入りたい方は毎日入られるよう努めている。入浴好まない方2名いるので、安心して入る時間帯に慣れたスタッフと工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、生活リズム整うように努めているが、たまに寝付けない方にはホットミルク提供し、くつろいだ雰囲気になるよう対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、片付け、料理、草取り、花植え、歌、ビデオ、縫い物、手紙書き、ゴミ箱作り、カルタ取り、散歩、体操、月2回の行事、ドライブ、外食、利用者の得意とする力を発揮して頂くことにより喜びと自信につなげて頂く。また、ドライブ、行事等は利用者とは相談しながら決めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方の協力得て、小額のお金を持っている方は1人いますが、その他の方はトラブルになりうる方々なので家族よりお金お預かりし事業所が管理している。買いたい物がある時はスタッフが同行し、ご自分で好きな物を選んで頂き買い物をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は利用者の希望に合わせて散歩しています。また、天気や本人の体調、気分、希望に合わせて、買い物、ドライブに出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段行けない遠距離の外出は、事前に下見し、計画を立て、実施日にはスタッフの人数増やしたり家族に協力して頂いたりし、月2回以上はドライブに行けるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望、願いに応じ、待たせず家族と連絡とれるよう家族にもお話し、ご自分で電話かけて頂いたり、家族に利用者の思いをお話したりしている。手紙もすぐ書けるよう対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間設けず、いつでも遠慮なく過ごして頂けるよう笑顔で接している。イスやお茶用意し居心地の良い雰囲気づくり心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ一人ひとり、ケア会議、カンファレンス、日々の申し送りの中で利用者ケアを振り返り、全員で話し合っている。夜間、ベッドから落ちる危険の方にはプランの見直しかけ、落ちないように全員で対応している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に見守り強化し、外出しそうな様子見たら本人の思いを聞きながら一緒に外に出たり一緒に話を十分に聞き、ご本人落ち着いたら中に入るようにし、鍵をかけないように努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は関わりの中から、さりげなく全員の状況把握するよう努め、夜間は2時間ごとに利用者の様子観察し、2時間の仮眠の際も全員の居室見通せる場所に休み、24時間利用者の安全に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせ対応し、包丁は夜間は保管場所確保し、保管している。その他の危険物は手の届かない場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書作成し、日々のヒヤリハット、職員全員に声掛けし意識共有を図っている。緊急時対応マニュアル作成し、備えています。ホールには必ず見守りいるよう職員全員に声掛け行っている。学習委員会で特養看護師、消防署の協力を得て行った救急手当てや蘇生術の研修に全員参加した。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時対応マニュアル作成し、グループホーム内でも勉強会に取り入れる。看護師、消防署の協力得て救急手当や蘇生術の研修を受けた。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアル作成し、年2回、利用者と避難訓練行っている。また、消防署の協力を得て消火器の使い方の訓練も行っている。地域の協力体制については運営推進会議で協力を呼びかけている。非常時食料、備品等身近な所に備蓄している。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こりえるリスクについては家族と話し合いし対応し、伸び伸びと自由に暮らせるよう支援している。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日1回バイタルチェック実施している。体調変化があった場合は、状態記録して看護師に報告するとともに、家族にも報告し、対応している。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は一人ひとり服薬ケース用意し、すぐ確認できるよう朝・昼・夕、名前・日付記入し、服薬時は担当のスタッフが手渡し、きちんと服用しているか確認している。また、薬を嫌がる利用者様にはオブラート、ジュース、プリン等に入れ服用して頂いている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排泄チェックし、早朝に冷たい牛乳、バナナ摂取して頂いたり、水分、果物多め、野菜多めのメニューにしたり工夫している。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の気持ちに配慮しながら一人ひとりのできることを見きわめ、その人に合った対応をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、スタッフが情報を共有しながら、利用者様の状態に合わせ支援している。また、3名の方体重が増えているので、カロリー面で控えめなメニュー心掛け、管理栄養士さんと相談している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアル作成し、グループホーム内で勉強会を行い、早期発見、早期対応に努めている。スタッフ全員、利用者全員家族の方の同意得てインフルエンザ予防接種行っています。また、ノロウイルス対策としてペーパータオル使用、うがい、手洗い、次亜水塩素酸入り消毒使用して掃除等、布巾、まな板消毒、加湿器にも活用している。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾等は次亜水で消毒、その都度洗濯を定期的に、冷蔵庫の中、古い物処理し、次亜水で拭いて消毒し、その都度台所衛生管理チェック表に記入している。食材は新鮮な物、地域の食材取り入れるよう毎日のように発注している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭には季節の花、野菜を利用者と一緒に植え季節感が出るようにしている。常に利用者様が外眺められるようベンチ用意し、また、近隣の方が通りすぎた場合に気軽に立ち寄り、一息つけるような雰囲気づくりを行っている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとり落ち着けるよう神棚設置し、グループホーム内で餅つき行い、お供え餅、お飾りと利用者と職員一緒に作り、飾っている。夜間は廊下等照明の調整を行っている。室内の飾りには季節感持たせるよう常に野の花、庭の花を飾り、野山に行った雰囲気作りを努めている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや玄関外にイスやベンチ、ソファを設置し、一人でゆったり過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペース作っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者によって荷物を持ってくると不安になると思い持っていない方多い。最近、家庭に近い雰囲気作りに暖簾を勧めたが、そのことによって不穏になり帰宅願望につながってしまった。このことを運営推進会議に投げかけたが、「ここは家ではないから…。このままでいい」と家族の一人が話されていた。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	今年10月27日、エアコン設置している。床暖と一緒に使用し、9時、12時、15時、20時、4時に温度と湿度記入し、常に室内温度を管理している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に合わせて浴室、トイレ、廊下、居室等の居住環境に手すりを付ける等して、安全確保と自立への配慮をしている。		車椅子トイレに手すりないので、検討したい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	スタッフ全員でカンファレンス、ケア会議行い、利用者一人ひとり何が分からないのか、どうすればできるか日々検討し、ケアプラン見直しかけ、プランに入れ対応し、各居室の戸、利用者の目線の所に大きく名前等表示し、混乱のないよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花や野菜を植えたり、玄関外にベンチ、テーブル置き涼んだり、外でお茶飲んだりしている。また、リビングから見える所に花壇作り、常に花眺められるようにしている。裏の方にもイス、ベンチ置いて季節の花、野菜見れるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)